

指定認知症対応型共同生活介護事業者自己評価表

事業者名	グループホームふれやか和 1, 2Fユニット	評価実施年月日	H19年4月20日
評価実施構成員氏名	施設長 ・高橋 佳三 管理者 ・村瀬 妙栄 介護員 ・園部 綾 ・星 友子		
記録者氏名	村瀬 妙栄	記録年月日	H19年4月30日

(平成19年4月版)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、利用者が在宅で暮らしていた生活をそのまま継続できるような、また穏やかに個々の能力を生かせるような場所にしていきたい、という思いをこめた理念を基に、サービスを提供している。	理念の中に「第二の我が家を目指して」…とあるように、地域の人々にとっても安らげる集いの場であって欲しいと願い、地域交流のために日々取り組んでいる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を見やすいところに明示し、職員ひとりひとり携帯もしている。また会議等で運営者が説明をしている。	ホーム運営理念のほかにユニットごとの介護理念について職員全員で構築し、日々の実践に反映させている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所のパンフレットに、理念を明記している。	家族には面会時、家族会のときに説明している。また地域には通信を回覧板にてまわし理解してもらっている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会や近所の教会の行事などに積極的に参加し、交流を図っている。ホーム内の行事についても、通信を回覧することで参加を呼びかけている。	近所をの散歩を日課とし、声かけ、あいさつを交わす事で、馴染みの関係を築いている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市の広報や新聞等で利用者が参加、見学できる催しがあれば、積極的に出かけている。町内会清掃に参加している。	市民合唱祭、社協ふれあい広場に参加し、事業所の活動を理解してもらい、また利用者の生き生きとした姿を見てもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会長、民生委員を通して、独居高齢者と関わりを持つよう、取り組んでいる。		医療機関受診困難な高齢者宅に、ホーム往診医師を紹介したり、除雪の協力を行なっている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義について会議時に話し合い、取り組み、改善点は職員とともに見直している。		前回の改善点については職員と共に話し合い、すでに改善している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、利用者、家族、包括支援センター職員、町内会長などからアドバイス、要望などを伺い、検討している。		会議の記録は玄関に掲示すると共に、利用者家族全員に送付し、内容を確認してもらっている。また職員会議でも検討している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告でのアドバイスを頂いたり、介護申請時には出向いて、連携を密にとる様にしている。。		問題点についてはその都度相談し、解決の為の話し合いをしている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業について関係機関と話し合い、利用者が安心して生活を送れるよう、制度を必要とされるかたに活用している。		成年後見制度については、現在市担当者と協議しながら進めている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議時に高齢者虐待防止関連法について話し合い、職員の理解を図っている。		利用者一人ひとりの心身状態の変化や異常サインを見逃さず、職員全員で注意している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
s				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分な説明をすると共に、不安、疑問な点については、来所時にもその都度伺い、理解して頂いている。		家族会で職員と交流を図り、家族が話しやすい環境を作っている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に毎回運営推進会議に出席してもらい、ホームに対する意見、感想を伺っている。		権利擁護事業を利用している利用者は、毎月生活支援員と心配事などを相談している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に必ず職員より近況報告をし、毎月の個人別の通信でも写真や生活状況、出納報告を掲載している。		利用者の健康状態や精神状態により、その都度報告をするようにしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にアンケートを依頼し、意見を伺い、会議時に検討し運営に反映させている。		契約時の要事項説明書に公的窓口の紹介をしている。苦情係りの相談窓口のポスターをホーム内の見やすい場所に掲示している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員にアンケートをとったり会議時に意見を聞き、日常業務に活かしている。		個別に話を聞く機会を持ち、意見を聞いている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	会議時に職員からの意見や要望を取り入れ、利用者の状況により、必要な人員を配置できるよう、対応している。		利用者の急変時、家族が受診対応が不可能な場合には、職員が柔軟に対応できる体制を整えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動はやむをえない理由を除いては行わず、離職希望があった場合には、可能な限り留まるよう話し合っている。		今後は離職希望者がそのような決心をする前に悩みなどを解決できるよう努めていきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数に合わせ実務者研修を受講している。市内の研修、勉強会にはその都度参加を呼びかけている。		事業所内の勉強会にも今後もっと充実を図り、ケアの質の向上に取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合唱際の取り組みなど他事業所と連携して行い、交流、情報交換を行っている。グループホーム協議会オホーツクブロック立ち上げに関わり、ネットワーク作りに取り組んでいる。		運営者自ら職員と他事業所を訪問し、優れている点について共有し、ケアに反映していけるよう話し合っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士の交流会（会食）を、運営者も交えて定期的に行っている。人間関係などでストレスが蓄積されないように個人的に話を聞く場面を設けている。		職員の休憩室はユニット毎に設け、絨毯、テーブル、ロッカー、暖房設備がある。休日は極力、本人の希望を聞いている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の実績を認め常に感謝の言葉をかけ、手当て等により評価をしている。また資格手当を設け、向上心を持ってもらうよう努めている。		パート職員にも、一定の期間務めている者に対して、昇給をしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	生活歴、病歴、家族の意向を認識した上で、利用者の希望、要望に基づいたアセスメントをしている。	実際に利用者が暮らしているお宅に伺い、どのような生活を送っていたのか、生活様式を把握することで、入居後の生活をスムーズに支援できるよう努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者と共に、また利用者のいない場でも家族の要望、入居に至るまでの経緯を詳しく聞き、家族が安心できるようなサービスを提供できるよう努めている。	入居前に利用者と共にご家族にも気軽に遊びに来ていただき、ホーム内の雰囲気を確認してもらえよう、食事を用意するなどしていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所の同グループでは多様なサービスを行なっている為、必要としているサービスを迅速に調整することが出来る。	利用者、家族の置かれている状況、要望を考慮し、改善に向けた支援をし、信頼関係を築きながら、必要なサービスに繋がるよう対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に極力家族と共に本人にも来所して頂き、納得した上で入居を決めている。	入居前に気軽に遊びに来て食事をしてもらったり、泊まれるよう寝具を用意するなどして、入所の体験をしてもらい利用者、家族に安心感を持ってもらえるよう整えている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでのほとんどの出来事に職員も一緒に関わっているため、気持ちを共有する事ができる。	時には職員が利用者に肩をもんでもらったり、昔の歌を教えてもらったりしている。常に感謝の言葉をかけ、利用者が自信を持ち自発的に自分のことを行ってもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事への協力や参加の働きかけ、余暇活動の提案、準備など、職員と共に利用者と関わり、相談し合っている。		家族の出来ることで、病院の受診対応や外泊、外出などで利用者に関わってもらったり、洗濯物をお願いするなど協力をしてもらっている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には笑顔で対応を心がけ、利用者とも楽しく過ごせるよう、話題提供している。利用者の誕生会には、家族に参加してもらっている。		家族会時は会食方式にして、家族の悩みなどを話しやすい雰囲気になっている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の住んでいた町や家に遊びに行ったり、馴染みの人が遊びに来てくれたときは快く迎え、交流を絶やさないように努めている。		入居前から行きつけている美容室、理容室に変わらず通えるよう支援している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	家事は分担して行い、利用者皆で協力して日常生活を送れるよう努めている。		認知の重度の利用者に対し、他の利用者が理解してもらえるよう話し、危険行為を知らせてくれるなど、協力をしてくれている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院退去された方へお見舞いに行き様子を知ったり、年賀状のやり取りをしている。		退去後、死亡された方の葬儀に必ず行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望、要望に基づいた計画作成を行い、困難な場合には職員会議により皆で利用者にあつたケアを考えている。	ケアプランを職員一人ひとりが把握し、統一されたケアができるよう努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、病歴、家族の意向を認識した上でアセスメントをしている。	家族面会時には近況を報告し、問題があれば解決に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別の生活記録を、午前・午後・夕方・夜と詳細に記録し、申し送り簿の活用、口頭での申し送りにより利用者の状態を確認している。	会議時には、利用者一人ひとりの話し合いを行い、担当スタッフの意見を聞くなどしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者と家族、職員、担当医に意見を聞き、計画作成行っている。	家族の現状も理解し、協力が得られない場合でも、職員が家族になったつもりで計画を立てている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標、長期目標の定期的なモニタリングのほか、会議の中でも個別にケアを検討している。	毎月、利用者の担当スタッフに問題点や改善された事項を確認している。家族にも面会時や通信で確認している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別生活記録をつけている。ケアプランも添付して常に確認している。		利用者一人ひとりに担当スタッフがおり、注意深く観察しながら計画に取り入れている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望により、可能な状況であれば短期利用をしてもらったり、気軽に遊びに來たり食事をしてもらえるような体制を整えている。	○	現在、短期利用のための予備の居室がないため、今後整備していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営者はＳＯＳネットワーク連絡協議会に参加し、徘徊のある利用者に対応出来るよう関係機関との連絡方法を職員に周知徹底している。		運営推進会議でも地域の協力が得られるよう話し合い、交流を深めることにより利用者が安全に暮らせる取り組みを検討している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	病院入院中に受けていたサービスを、引き続き受けていけるよう支援している。		今後利用者、又は家族の希望があった場合には、他のサービスも受けるよう奨めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議でアドバイスを頂き、利用者、家族の話も聞いてもらっている。		利用者、家族全員が順番に運営推進会議に参加できるように進めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の医療機関があるほか、在宅時から受診している病院通院を継続している。		内科医の往診が月に二回あり、親身に相談に乗ってもらえる。担当医をこちらに変更する場合は、利用者、家族の了解を得て、前担当医の紹介状を頂いている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	馴染みの精神科医に相談、協力を依頼できる。		提携医療機関の医師は認知症の理解が深く、いつでも相談できるほか、専門医への紹介をしてもらえる。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員の中に看護師がおり、いつでも相談できるほか、利用者急変時にも対応が出来る。		月に2回の往診時、事前に看護師の問診があり、指導や相談ができる。また退職した看護師が近所に住んでいるので、いつでも相談できる。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後もこまめに利用者と面会し、不安や不便なことがないか聞いてコミュニケーションをとっている。家族との連絡を密にとっている。		家族と共に医師と話し合い、退院後の生活をスムーズに送れるよう努めている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族からの要望に基づいた計画を立て、それぞれの担当医に相談し、終末期を穏やかに過ごしてもらえるよう努めている。		急変時のマニュアルを用意し、職員と対応を話し合っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の利用者の要望に応えられるよう、担当医師と連携を取り、急変にも対応できるよう取り組んでいる。		職員同士が小さな変化についても申し送りをし、病状を把握し、担当医師と連絡を密にし、いつでも指示を仰げる体制を整えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	情報交換を密にして、以前いた生活と変わらない ケア方法を考慮している。		退去時には、介護添書を作成し、電話での問い合 わせに応じたり面会に出向いたりしている。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	排泄援助などを好まない方には他の理由（湿布を 貼らせて欲しいなど）を探して一緒にトイレに行 くようにするなど、他の利用者に判らない様な声 かけを行っている。		排泄チェック表や個人の記録は、人目に触れない ような場所に保管している。利用者の前で、他利 用者のプライベートに関する話をしないよう気を つけている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	常に「どうしましょうか?」と利用者に問いか け、本人希望により行動できるよう支援してい る。		利用者が望んでいると思われるような事柄をいく つか予測し、その中から希望を選べるようにして いる。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	午前の日課の散歩以外にも、本人の希望があれ ば、その都度対応する。食事はその時食べられ ないようなら、時間をずらしたり食べたいものに 変えたりしている。		入浴についても入りたくない場合は、時間や日に ちを変えるなど、利用者の希望を聞くようにして いる。
○				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	道路向かいに美容室がありすぐに対応できる。歩 行の難しい方の場合出張してもらえ。利用者 の意思で好きな髪形にしている。		馴染みの店があるかたは、送迎して通っている。 毛染め希望される方は、ホーム内で職員が行っ ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を見せてどんな料理にしたら良いか、意見、調理法を聞き、下ごしらえや味見してもらい、彩りや季節感にも配慮し、スタッフも一緒に食事を楽しんでいる。		片付けは利用者自ら分担して行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お祝い事の際には希望があれば、お酒を用意している。誕生会に利用者の好みによりメニューを決めている。		おやつ、飲物などいくつか種類を用意して、利用者を選んでもらっている。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の活用により、排泄パターンを掴み誘導している。また、落ち着きがなくなるなどのサインを見逃さないように誘導している。		フロア内に一箇所しかトイレがないことから、込み合うことがあるが、スムーズに他の階に誘導するよう努めている。常に清潔にしている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後から、順番については利用者に聞いて入ってもらう。好みの入浴剤を使用し、温泉気分を味わってもらっている。		足浴希望される方には、毎日行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中昼寝される方には、リビングでも寝られるようクッション、寝具など揃えている。消灯時間は設けず、利用者のペースに合わせている。		利用者の夜間の様子を巡回時間ごとに個別に記録することで、職員が睡眠状態を把握し、昼間の生活に配慮している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る事について役割として行ってもらい、その都度感謝の言葉をかける。郵便物をとってきてもらう、掃除機をかけてもらうなど。		月一回のカラオケ大会を実施し利用者の発表の場を作っている。週一回の書道教室により作品を展示、上達することの喜びを感じている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	週一回、宅配パン屋さんに来てもらい、自分の財 布で買い物してもらおう。自動販売機も設置してい る。要望により外出し買い物に出かけている。		外出の困難な利用者には、要望により職員が買い 物に行っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	利用者の希望により外出している。買い物、食 事、お彼岸のお参り、散歩など。		馴染みの美容室、商店に通って、馴染みのかたと の交流が出来るように支援している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	利用者の意見を反映し、季節ごとの催し物や遠方 の行楽地や温泉へ出かけている。		家族参加の行事を多数企画し、通信でお知らせし たり、来所時、声かけしている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	要望により電話、手紙の介助をしている。電話は いつでも使用可能。便箋、封筒、切手等は常に用 意している。		近くのポストまで一緒に手紙を出しに行ってい る。かかってきた電話については、本人の意向を 聞いて取り次いでいる。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	来客者にはチャイムを鳴らさず入っていただき、 面会簿に名前を記入してもらうことにより、職員 も名前を覚えて笑顔で対応する様、心かけてい る。		面会時間は特に設けず、来客者には一緒におやつ やお茶を頂いてもらい、利用者と和やかに過ごせ るよう、配慮している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていない。職員は禁止行為に ついて、理解している。		精神薬については医師と相談しながら、極力減ら している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日勤者（9：30～18：30）の勤務時間帯には施錠せず、出入りは自由。居室には鍵をつけていない。		徘徊のある利用者に対しては、その都度職員が対応、本人に納得してもらうよう努めている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間の見回りに関しては常に配慮し、ドアの隙間より様子を伺う。日中もそっと見守り、危険が生じると思われた時には、介助をする。		歩行の心配な利用者にはナースコールを利用してもらい、夜間排泄介助している。夜間の様子を個別に記録し、日中の生活に考慮している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ、かみそりについては、管理の問題のない利用者には所持してもらっている。		包丁、キッチンバサミについては、職員が管理し調理時には付き添いながら使用している。裁縫時のはさみ、針についても同様。薬については鍵のついた棚に保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息の恐れのある利用者については常に見守り、服薬に関してはホームにて管理。名前、日付等読み上げ確認行っている。		施設内は禁煙。利用者に喫煙者はいないが、過去には職員が付き添い対応。ヒヤリハットの記録を会議時に検討している。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	会議時に看護師より応急手当等について勉強し、職員全員把握している。緊急時のマニュアルを分かり易い場所に掲示している。		消防や病院の救急時の対応についての講習会に、職員全員が参加していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行い、職員全員が避難方法を把握している。向かいの下宿学生に災害時の救命協力を依頼している。		町内会の交流を深めることで、地域の協力を得られるよう、運営推進会議で検討している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の状態に応じて、その都度家族と話し合い、安全な生活を送って頂ける様、努めている。		身体拘束は行わず、利用者に危険が生じるような状況があった場合、対策を職員全員で考えている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、必要な時にはその都度行う。小さな変化も見逃さないように、また気付いたら、記録し申し送る。		状況に応じて提携医療機関に連絡、指示を仰ぐ。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を理解し、服薬管理行っている。処方の変更については、その都度申し送り簿にて周知している。		服薬時、利用者の前で名前、日付（朝・昼・夕も）を読み上げ、確認する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘改善のためのメニューや、牛乳、水分補給を行い、室内でもできる運動を行い、解消に取り組んでいる。		排便チェック表や毎日の本人聞き取りを行い、様子を伺い、必要に応じて便秘薬を服用してもらう。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き、うがいを行っている。		利用者の希望や状態により、歯科受診している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表により、一日の摂取量（三食の主食・副食の量、おやつ）を把握するようにしている。食事を摂れない場合は、食べやすいものや果物等で補うようにし、必要に応じては医師より栄養補助食品を処方してもらう。		食後にコーヒーを飲む習慣の方には、飲んでいただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを周知し、石鹸、ペーパータオル、消毒液を用意し予防に努めている。		外出後はただちにうがい、手洗い、消毒を行い、職員も出勤時同様に行っている。うがいはうがい薬（イソジン）使用。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週に2～3回の買出しにより、常に新鮮な食材を使用している。包丁、まな板などの調理器具は、常に使用後消毒している。		1日三回の調理後、常に台所を清潔にするよう心がけている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口には「和」の看板を掲げ、春には花を置くなどして、近隣の方も楽しめる工夫をしている。玄関前に駐車スペースを用意し、玄関は施錠せずいつでも出入りできる。		自動販売機を設置しているので、近くの方が気軽に遊びに来てくれる事を期待している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、危険なものは排除し、季節や行事ごとの飾り付けを用意している。廊下には行事の写真や書道作品を貼り楽しい思い出を忘れないように職員も声をかけている。		職員は常に落ち着いた声で利用者に接するよう努め、業務連絡などは小さな声で交わし、私語は慎んでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のスペースにはソファを置き、皆で会話を楽しめる。食事以外の時間には食卓テーブルで作業したり、本を読んだりできる。		少し距離をおいた場所にマッサージチェアを置いてくつろげるようになっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	極力新しいものは買わず、在宅で使用していた馴染みのものを持ってきてもらう。新しく買う場合は、以前使用していたものと似たようなものを、家具の配置についても、在宅時と同じになるよう配慮している。		テレビや冷蔵庫などの電化製品についても、希望により設置可。ストーブとクローゼットのみ備え付け。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう 換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に 応じてこまめに行っている	冬でも換気をこまめに行い、乾燥しないように加湿器を使用したり、洗濯物を干したりしている。暖房はオール電化により、常に温度が一定に保たれている。（温湿度計により管理）		各居室にも温湿度計取り付け管理している。リビング、トイレに空気清浄機設置。（一部居室も）
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生 活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すり設置している。必要な箇所にはすべり止め。危険と思われるものは排除している。		日中居室で過ごされる方で、歩行に不安のある方にはポータブルトイレを設置。必要時ナースコールを使用して対応している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	トイレや居室にはプレートを取り付けて、分かり易い工夫をしている。四階建ての建物の為、何階にいるのか混乱しないように表示している。		夜間でもトイレの電気をつけて、わかりやすいようにしている。錯覚を起こすようなものやわかりづらいものは、常に改善に努めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽 しんだり、活動できるように活かしている	外の物干し場で一緒に洗濯物を干したり、畑で野菜を作り、水遣りや収穫を楽しめる。		外にベンチやパラソル、テーブルを置いて昼食を楽しむこともある。（ジギスカンなど）

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○月一度のカラオケ大会には地元の方以外に遠方からもボランティアの方が来て下さり、回を重ねるごとに利用者との交流が深まっています。歌の好きな利用者が多く、市民合唱祭や社協ふれあい広場に参加し生き生きと歌を発表しています。

○「自由に、ゆったり、ありのままに」利用者が自分の想いで生きられるよう、また「家族」同様に喜怒哀楽を分かち合いながら共に生きていける空間を作る為に、穏やかに安心して終末期まで暮らせる「わが家」を目指してスタッフ一同支援させていただいています。